

全国中学校人権作文コンテスト

法務省と全国人権擁護委員協議会は、次代を担う中学生に、家庭や学校での日常生活で得た体験に基づいた作文を通して、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けてもらうことを目的として、中学生人権作文コンテストを実施しています。

今年度のコンテストの廿日市地区大会で、市内の中学生の4作品が入賞しました。

「生命尊重の日」とは

34年前、当時の生徒が校内で不幸な事故により亡くなりました。大竹中学校では、事故があった日（5月23日）を「生命尊重の日」として、生命の尊さについて考える日としています。

昨年度からは、生徒会の発案により、これを発展させた取り組み『ハートプロジェクト』を毎月行うことにしました。クラス単位で命の尊さについて考え、全校に向けて発信しています。

受賞者の声

大竹中学校



大竹中学校で約30年前から実施している「生命尊重の日」を題材にした栢田選さん

三十数年前から続いている「生命尊重の日」の取り組み、さらに自分達がそれを発展させた「ハートプロジェクト」をこれから先も次へとつないでいきたいと思っています。それがこのような賞につながってうれしい。

問い合わせ 自治振興課 ☎2145

小方中学校



中野紗良さん

これからも人権の大切さについて考えていきたい



浜本ひなさん

この賞のことを周りの人に知らせ、それをきっかけにいろいろな人に人権についてもっと知ってもらいたい



松岡怜奈さん

この受賞が市広報に載ることとで、いろいろな人が人権の大切さについて知ってくれたらうれしい

作文集をご覧ください

このように、中学生が、「人権について、1人でも多くの人に考えてもらえるようにしたい」と考えていることは、「自分の人権が守られていると思えるまち」をめざす大竹市にとって、大変心強いことです。中学生のこの思いが、少しずつ市民全体に広がるよう、市も啓発に努めます。

なお、受賞作文が収録された作文集「みんなのねがい」を、総合市民会館、市立図書館、各公民館および自治振興課に設置しています。ぜひご覧ください。